

懸垂および依存を表す動詞が取る前置詞について

平 塚 徹

要 旨

ヨーロッパの諸言語において懸垂を表す動詞 (*to hang* など) は、起点を表す前置詞 (*from* など) を取る場合もあれば、接触を表す前置詞 (*on* など) を取る場合もある。どちらの前置詞を取るかは、事態の捉え方によって異なる。通常は接触を表す前置詞を取る言語であっても、分離を表す接頭辞が付いた動詞を用いる場合には、起点を表す前置詞を取る。

ヨーロッパの多くの言語において、依存を表す動詞 (*to depend* など) は、懸垂を表す動詞に接頭辞を付けた形をしている。しかし、懸垂の意味から依存の意味への移行は、接頭辞によって起こるのではなく、むしろ、「何かに依存していること」を「何かにぶら下がっていること」に見立てて理解する「懸垂メタファー」により起こる。

分離を表す接頭辞を伴い依存を表す動詞は、接頭辞の意味から、起点を表す前置詞を取る。英語においては、*depend* はかつて起点を表す前置詞 *of* を取っていたが、語源が通常意識されなかったため、類義表現との類推から *on* を取るように変わった。前置詞の選択を理解するためには、認知的要因だけでなく、言語接触や純粹主義などの社会言語学的要因も考慮しなければならない。

キーワード：依存を表す動詞、懸垂を表す動詞、懸垂メタファー、接頭辞、前置詞

1. はじめに

英語の「依存する」という意味の動詞 *depend* は前置詞 *on* を取るが、対応するフランス語の動詞 *dépendre* は起点を表す前置詞 *de* (～から) を取る。この動詞は、フランス語から英語に借用され、中英語の *dependen* となったが、当初は、フランス語の *de* と同じく起点を表す前置詞 *of* が見られた。しかし、次第に、*on* に取って代わられていく。尾崎 (2009, pp.9-10) は、*depend on* の類義表現が、(1) のようにことごとく *on* を取ることを指摘し、これらとの類推から、*depend* が *on* を取るようになったと説明している。

(1) *to count on, to calculate on, to figure on, to hang on, to reckon on, to rely on, to rest on*

他方、ドイツ語の「依存する」ことを表す動詞 *abhängen* は、語構成 (第2章で詳述) から見て、フランス語の *dépendre* やその元となったラテン語の *dependere* に倣って出来たものと考えられるが、前置詞は起点を表す *von* (～から) を取る。尾崎 (2009, p.10) は、ドイツ語においても *abhängen* の類義表現が前置詞 *auf* (～の上に) を取ると指摘しつつも、前置詞が *von* から

auf に変わらなかった事実を前に、以下のように結論づけている。

- (2) したがって、dépendre de を借用した際に、英語は *de* という前置詞に違和感を覚えたため、同義の表現との「類推」によって、それに相当する *of* を *on* に徐々に交換していったが、ドイツ語は *von* では不自然だと感じたものの、そのまま借用翻訳した形を採用して、今日に至ると結論づけられる。(尾崎, 2009, p.10)

ドイツ語において前置詞 *von* が不自然だと感じられながら使われ続けたとは、筆者には思えない。そこで、本稿は、「依存する」ことを表す動詞が取る前置詞について、それがどのように決まり、また、変化するかを調査・解明する。

本稿の構成は以下の通りである。第2章では、ヨーロッパの諸言語において、「依存する」ことを表す動詞が、「ぶら下がっている」ことを表す動詞から派生していることを見る（以下、「ぶら下がっていること」を「懸垂」と称することにする）。第3章では、懸垂がどのような事態かを述べる。第4章では、懸垂を表す動詞が取る前置詞について考察する。第5章では、接頭辞と前置詞の関係について見る。第6章では、依存を表す動詞が「懸垂メタファー」に基づいていることを明らかにする。第7章では、依存を表す動詞が取る前置詞について調査・解明する。第8章では、全体を総括する。

2. 依存を表す動詞の語構成

ヨーロッパの諸言語においては、依存を表す動詞は、しばしば、懸垂を表す動詞に接頭辞を付けて派生された動詞で表される¹⁾。例えば、ロマンス諸語では、以下ようになる。

表1 ロマンス諸語における依存を表す動詞の派生

言語	依存する	ぶら下がっている
フランス語	dépendre	pendre
イタリア語	dipendere	pendere
スペイン語	depender	pende
ポルトガル語	depender	pende
カタロニア語 ²⁾	dependre	penjar
ルーマニア語 ³⁾	depinde	—

これは、そもそも、懸垂を表す動詞が、ラテン語の *pendere* 「ぶら下がっている」に由来する一方、依存を表す動詞は、*pendere* に分離を表す接頭辞 *de-* を付けた *dependere* 「依存する」に由来するからである。

ゲルマン語派においては、懸垂を表す動詞は、英語の *hang* と同源の語によって表される。また、多くの言語において、依存を表す動詞は、それに分離を表す接頭辞を付けた動詞で表される。

表2 ゲルマン語派における依存を表す動詞の派生

言語	依存する	ぶら下がっている
英語	depend	hang
ドイツ語	abhängen	hängen
オランダ語	afhangen	hangen
フリジア語	ôfhingje	hingje
デンマーク語	afhænge	hænge
ノルウェー語(ブックモール)	avhenge	henge

ただし、英語の *depend* は、フランス語からの借用語であるため、懸垂を表す *hang* とは関係が無い。

スラブ語派においては、懸垂を表す動詞は、語根 *vis-* を用いた動詞が使われる。また、多くの言語において、接頭辞 *za-* を付けたものが依存を意味している (cf. Herman, pp.892-894) ⁴⁾。

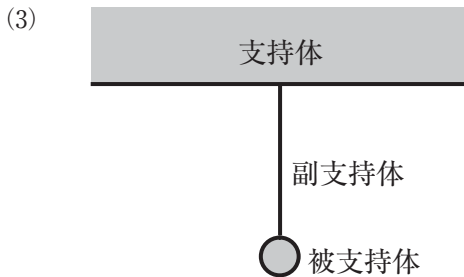
表3 スラブ語派における依存を表す動詞の派生

言語	依存する	ぶら下がっている
ロシア語	zaviset'	viset'
ポーランド語《古語》	zawisać	wisiać
チェコ語	záviset	viset
スロバキア語	závisieť	visieť
セルボ・クロアチア語	zavisiti	visiti
ブルガリア語	zavisja	visja

このように依存を表す動詞は、懸垂を表す動詞から派生されている。しかも、後で詳しく見るように、懸垂を表す動詞は、接頭辞を付けることなくそのままでも依存を表す場合がある。また、接頭辞付きの依存を表す動詞が、懸垂も表す場合もある。つまり、懸垂という意味から依存という意味に移行するには、必ずしも接頭辞は必要なく、懸垂を表す動詞がそのまま依存を意味するのである。このことは、この意味派生が、「AがBに依存していること」を「AがBにぶら下がっていること」に見立てるメタファー（これを「懸垂メタファー」と称する）によって動機づけられていることを示している。よって、依存を表す動詞について考察するには、まず、懸垂を表す動詞について考察することが必要である。

3. 懸垂という事態

懸垂という事態は、少なくとも「被支持体」と「支持体」の二つの参与項があり、被支持体の重量が、典型的には上方から、場合によっては側面から、支持体によって支持されているというものである。また、しばしば、被支持体と支持体の間に支持のための別の物体が介在する場合もある。この物体は典型的には紐状のものであるが、鉤状等、他の形態のものである場合もある。これを「副支持体」と呼ぶことにする。



幾つか代表的なケースを挙げる。

- (4) 照明器具が天井からぶら下がっている。

ここでは、照明器具が被支持体、天井が支持体となっている。コードや鎖が支持に介在している場合は、これが副支持体となる。

- (5) 木の実が枝になっている。

木の実が被支持体、枝が支持体となっている。木の実の柄、即ち果柄が副支持体になっていると考えることも可能だが、柄がどれくらい顕著で、話者がそれを意識しているかどうかは場合に依るだろう。

- (6) 衣類が壁に掛かっている。

衣類が被支持体、壁が支持体となっている。支持のために釘が介在していれば、それが副支持体となる。もし、衣類をハンガーに掛けて、それを釘に掛けていれば、釘とハンガーが副支持体になる。しかし、壁が背景化されて、釘が支持体と見なされる場合もありうる。この場合には、以下のような。

(7) 衣類が釘に掛かっている。

もし、ハンガーが支持に介在していれば、それが副支持体となる。

このように、支持体と副支持体の選択は絶対的なものではなく、事態の捉え方による、相対的なものであると考えられる。

(8) 絵が壁に掛かっている。

この場合は、絵が被支持体、壁が支持体である。これについても、釘、あるいは、釘と紐が副支持体になっている場合が考えられる。

また、壁が背景化されて、釘が支持体と見なされる場合もありうる。

(9) 絵が釘に掛かっている。

(5) から (9) においては、日本語としての自然さを優先して、敢えて、「ぶら下がっている」という表現ではなく、「なっている」や「掛かっている」という表現を用いた。しかし、ヨーロッパの多くの言語において、これらの事態は、「ぶら下がっている」ことを表す動詞で表現される。よって、これらの事態を懸垂のカテゴリーに含めて考えることは妥当である。

第4章では、上述のような懸垂という事態を表すのに、支持体がどのような前置詞で標示されるかを見ていく。

4. 懸垂を表す動詞が取る前置詞

4.1. ロマンズ諸語

4.1.1. フランス語

照明器具が天井からぶら下がっている場合には、支持体である天井は前置詞 à (～に) で標示される。

(10) La lampe pend au plafond. (Vandeloise, 1989, p.108)

定冠詞 電灯 ぶら下がっている に-定冠詞 天井

電灯が天井からぶら下がっている。

被支持体である照明器具を支持するために、副支持体であるコードの上端が支持体である天井

に接着している。よって、支持体は副支持体が接着している対象として捉えられるので、前置詞 à で標示されていると考えることができる。副支持体が介在していない場合でも、支持体である天井は被支持体である照明器具が接着している対象として捉えられる。以下、接着している対象を「接着対象」と称することにする。

木の実が木になっている場合も同様に前置詞 à が使われる。

(11) Les fruits pendent à l'arbre. (Vandeloise, 1989, p.124)

定冠詞 木の実 ぶら下がっている に 定冠詞 - 木
木の実が木になっている。

これも、支持体である木が被支持体である木の実の支持のための接着対象として捉えられていると考えられる。

絵が壁に掛かっている場合も同様である。

(12) Le tableau pend au mur. (Vandeloise, 1989, p.112)

定冠詞 絵 ぶら下がっている に - 定冠詞 壁
絵が壁に掛かっている。

ここでも支持体である壁が接着対象として捉えられている。

次はコートがハンガーに掛かっている場合である。

(13) Le manteau pend au cintre. (Vandeloise, 1989, p.114)

定冠詞 コート ぶら下がっている に - 定冠詞 ハンガー
コートがハンガーに掛かっている。

これらのフランス語の文においては、支持体が前置詞 à で導かれている。このことは、懸垂という事態を概念化するにあたり、支持体が接着対象として捉えられていることを示していると考えられる⁵⁾。

4.1.2. イタリア語

イタリア語は、フランス語と同じく、ロマンス諸語に属する言語であるが、懸垂における支持体の標示については、全く異なっている。

例えば、照明器具が天井からぶら下がっている場合は次のようになる。

- (14) La lampada pende dal soffitto.
 定冠詞 ランプ ぶら下がっている から - 定冠詞 天井
 ランプが天井からぶら下がっている。
 (*Garzanti*, s.v. *pendere*)

ここでは、支持体である天井が起点を表す前置詞 *da* (～から) で標示されている。照明器具の重量は天井のコードなどが固定されている箇所から下方へと作用していることから、天井が起点として捉えられていると考えられる⁶⁾。

木の実が枝になっている場合も同様である。

- (15) Frutti dorati pendevano dai rami.
 実 金色の ぶら下がっていた から - 定冠詞 枝
 金色の実が枝になっていた。
 (*Zingarelli*, s.v. *pendere*)

やはり、起点を表す前置詞 *da* が使われている。この場合も、柄が木の枝に接着している箇所から木の実の重量が下方へと作用しているために、枝が起点と捉えられていると考えられる。

絵が壁ないし釘に掛かっている場合も同じである⁷⁾。

- (16) Il quadro pende dalla parete.
 定冠詞 絵 ぶら下がっている から - 定冠詞 壁
 絵が壁に掛かっている。
 (『伊和中辞典』, s.v. *pendere*)
- (17) Il quadro pende dal chiodo.
 定冠詞 絵 ぶら下がっている から - 定冠詞 釘
 絵が釘に掛かっている。
 (*Zingarelli*, s.v. *pendere*)

このように、イタリア語においては、フランス語とは異なり、懸垂の支持体は起点として捉えられている。

4.1.3. スペイン語

スペイン語もロマンス諸語に属するが、懸垂における支持体の標示には、イタリア語と同じく、起点を表す前置詞が使われる。

先ず、照明器具が天井からぶら下がっている場合を見る。

- (18) Una lámpara pendía del techo.
 不定冠詞 電灯 ぶら下がっていた から - 定冠詞 天井
 電灯が天井からぶら下がっていた。
 (OSD, s.v. pender)

やはり、起点を表す前置詞 de (～から) が使われている。

木の実が枝になっている場合も同様である。

- (19) Los frutos penden de las ramas.
 定冠詞 木の实 ぶら下がっている から 定冠詞 枝
 実が枝になっている。
 (『西和中辞典』, s.v. pender)

絵が釘にぶら下がっている場合も同様である⁸⁾。

- (20) El cuadro pende de una escarpia.
 定冠詞 絵 ぶら下がっている から 不定冠詞 釘
 絵が釘に掛かっている。
 (Moliner, s.v. pender)

このように、スペイン語においては、イタリア語と同じように、懸垂の支持体は起点として捉えられている⁹⁾。

4.2. ゲルマン語派

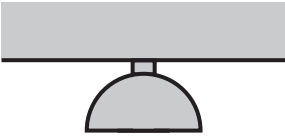
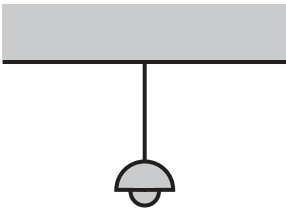

4.2.1. 英語

ランプがぶら下がっている場合については、Vandeloise (2005) は、(10) を次のように英訳している。

- (21) The lamp hangs from the ceiling. (Vandeloise, 1989, p.108)

ここでは、前置詞 from が使われている。つまり、イタリア語やスペイン語の場合と同じく、懸垂の支持体を起点として捉えた表現になっている。

しかしながら、被支持体が照明器具、支持体が天井であっても、前置詞 *from* が使われるとは限らない。イラストによって英語の前置詞の使い分けを示しているロス・タック (1999) は、以下に図示したそれぞれの状況に英文を与えている。(原典にはより写実的な絵が掲載されているが (p.63), ここでは垂直面上への投影図を簡略に描いたものに代える。)

- (22)  There is a light hanging on/from the ceiling.
(ロス・タック, p.231)
- (23)  There is a light hanging from the ceiling.
(ロス・タック, p.231)
- (24)  There is a light on the ceiling.
(ロス・タック, p.231)

(22) について *from* と *on* の両方が可能だが、「天井からぶら下がっているというイメージを表現したいとき」には *from* を使い、「天井にくっついているというイメージを表現したいとき」には *on* を使うと説明している (p.81)。換言すれば、支持体である天井が接着対象としてよりも起点として捉えられやすい場合には *from* を、起点としてよりも接着対象として捉えられやすい場合には *on* を用いるということになる。

木の実が枝になっている場合にも両方が可能のようである。例えば、*Collins-Robert* は、(25) のフランス語に対して、(26) の英訳を与えているが、ここでは前置詞 *from* が使われている。

- (25) Des fruits pendaient aux branches.
不定冠詞 木の実 ぶら下がっていた に-定冠詞 枝
木の実が枝になっていた。

(26) There was fruit hanging from the branches. (*Collins-Robert*, s.v. pendre)

しかし、ロス・タック (1999) は、以下の文を挙げている。

- (27) There is a persimmon (hanging) on the branch. (ロス・タック, p.227)

この文に対応するイラスト (p.16) を見てみると、枝と柿の実の間に柄が見えず、柿の実が枝にくっついているように見えるので、このことが前置詞 *on* を選択させているのだろう。この場合も、起点として捉えられやすいか、接着対象として捉えられやすいかによって、前置詞が変わるということになる。

絵が壁に掛かっている場合は、通常、前置詞 *on* が使われる。

(28) There is a picture (hanging) on the wall. (ロス・タック, p.227)

しかし、これも、前置詞 *on* になるとは限らない。Vandeloise (2005) は、絵の下端が壁に接触している場合と絵の下端が空中に浮いている場合を分けて、どちらもフランス語では前置詞 *à* を使用するとしている。

(29) Le tableau pend au mur. (Vandeloise, 1989, p.112)
 定冠詞 絵 ぶら下がっている に-定冠詞 壁
 絵が壁にぶら掛かっている。

それに対して、絵の下端が壁に接触している場合には (30) のように前置詞 *on* を用いて英訳し、絵が壁と平行に垂直になっていて下端が浮いている場合には (31) のように前置詞 *from* を用いて英訳している。

(30) The painting hangs on the wall. (Vandeloise, 2005)

(31) The painting hangs from the wall. (Vandeloise, 2005)

以上の例をまとめて考えると、前置詞 *from* が用いられるのは、重力の作用する下方向へのイメージが強い場合だと言える。それに対して、そのようなイメージが強くない場合には、前置詞 *on* が用いられる。換言すると、重力の作用する下方向へのイメージが強いときには支持体は起点として捉えられ、それが強くない場合には支持体は接着対象として捉えられるということになる。

なお、前置詞が *on* の場合、支持体が被支持体を支持していることが前置詞によっても標示されていて、その点では、フランス語の前置詞 *à* の場合とは異なっている。しかし、いずれにしても、支持体は接着対象と捉えられていると言える。

4.2.2. ドイツ語

ドイツ語では、木の実が木になっている場合、動詞 *hängen* を用いて、以下のように表される。

- (32) An dem Baum hingen Äpfel. (*Duden*, p1471)
 に 定冠詞 木 ぶら下がっていた りんご
 木にりんごがなっていた。

ここでは、木は英語の *on* に相当する前置詞 *an* で標示されている。被支持体である木の実が、支持体である木に接触し¹⁰⁾、支持されていることからこの前置詞が使われていると考えられる。

絵が壁に掛かっている場合も同様である。

- (33) Das Bild hängt an der Wand. (*Duden*, p1471)
 定冠詞 絵 ぶら下がっている に 定冠詞 壁
 絵が壁に掛かっている。

この場合も、壁は接着対象として捉えられている。

衣類が釘に掛かっている場合も同様である。

- (34) Der Hut hängt am Nagel. (*Grappin*, s.v. *hängen*)
 定冠詞 帽子 ぶら下がっている に - 定冠詞 釘
 帽子が釘に掛かっている。

しかし、照明器具が天井からぶら下がっている場合は、違っている。

- (35) Die Lampe hängt von der Decke herab.
 定冠詞 ランプ ぶら下がっている から 定冠詞 天井 上から下へ
 ランプが天井からぶら下がっている。
 (*Langenscheidt*, s.v. *herabhängen*)

この文では、動詞が *hängen* ではなく、上から下への方向を表す接頭辞を伴った動詞 *herabhängen* になり、天井は起点を表す前置詞 *von* で標示される (*herabhängen* は接頭辞が分離可能な「分離動詞」であり、実際、この文では接頭辞 *herab* は分離して文末に来ている)。

Duden では、*Hängelampe* (吊りランプ) を、*herabhängen* の現在分詞を用いて、次のように

説明している。

- (36) von der Decke herabhängende Lampe.
 から 定冠詞 天井 上から下へ-ぶら下がっている ランプ
 天井からぶら下がっているランプ
 (*Duden*, s.v. Hängelampe)

これは、英語と類似した状況だと言える。つまり、重力の作用する下方向へのイメージが強い場合には、支持体は起点として捉えられ、そうでない場合には、接着対象として捉えられるのである。しかも、ドイツ語の場合には、下方向へのイメージが強い場合には、それが接頭辞によっても表されるのである。

4.3. スラブ語派

4.3.1. ポーランド語

照明器具が天井からぶら下がっている場合、英語の on に相当する前置詞 na が使われている。

- (37) Lampa wisi na suficie. (Kopecka, p.307)
 ランプ ぶら下がっている に 天井
 ランプが天井からぶら下がっている。

支持体である天井は、接着対象として捉えられている。

木の実が枝になっている場合も同様である。

- (38) Jabłko wisi na gałęzi. (Kopecka, p.84)
 りんご ぶら下がっている に 枝
 りんごが枝になっている。

絵が壁に掛かっている場合も同様である。

- (39) Obraz wisi na ścianie. (Kopecka, p.84)
 絵 ぶら下がっている に 壁
 絵が壁に掛かっている。

ポーランド語では、支持体は、一貫して、接着対象として捉えられていると言える。

4.3.2. ロシア語

ロシア語では、絵が壁に掛かっている場合、ポーランド語と同じように、壁は前置詞 *na* で標示される。

- (40) *Kartina visit na stene.* (Ožegov, s.v. *visit*)
 絵 ぶら下がっている に 壁
 絵が壁に掛かっている。

即ち、支持体である壁は接着対象として捉えられている。

衣類が釘に掛かっている場合も同様である。

- (41) *Plat'e visit na gvozdě.* (『研究社露和辞典』, s.v. *visit*)
 ドレス ぶら下がっている に 釘
 服が釘に掛かっている。

しかし、照明器具が天井からぶら下がっている場合は、異なる標示が見られる。

- (42) *Ljustra visit pod potolkom.* (Ožegov, s.v. *visit*)
 シャンデリア ぶら下がっている の下に 天井
 シャンデリアが天井からぶら下がっている。

ここでは、下にあることを表す前置詞 *pod* が使われている。つまり、「シャンデリアが天井の下にぶら下がっている」という言い方になっている。

しかし、照明器具が天井からぶら下がっている場合であっても、前置詞 *na* が使われないわけではない。例えば、Wilson (1982) は、英語の *from* がロシア語の *na* に訳される例として、(43) に (44) の訳を当てている。

- (43) *The light hangs from the ceiling.*
 (44) *Ljustra visit na potolke.* (Wilson, v.s. *from*, 2)
 シャンデリア ぶら下がっている に 天井
 シャンデリアが天井からぶら下がっている。

4.2 で見たとおり、英語やドイツ語の場合には、通常は接触を表す前置詞が用いられるのだが、

重力の作用する下方向へのイメージが強い場合には、起点を表す前置詞が用いられる。ロシア語の場合も、重力の作用する下方向へのイメージが強い場合に、通常と異なる前置詞が表れるということであろう。ただし、起点を表す前置詞ではなく、基準物より下の位置を表す前置詞が用いられるところが、英語やドイツ語と異なっている。もっとも、このような前置詞が用いられること自体が、下方向へのイメージが強いことの表れとも考えられる。

4.3.3. チェコ語

チェコ語も、ロシア語と同様に、懸垂の支持体は原則的に前置詞 *na* で標示される。例えば、絵が壁に掛かっている場合、以下のようなになる。

- (45) *Na zdi visí obrazy.* (SSJČ, s.v. *viseti*)
 に 壁 ぶら下がっている 絵
 壁に絵が掛かっている。

しかし、照明器具の場合には、起点を表す前置詞 *z* があらわれる (*ze* は *z* の子音群の前での異形態)。

- (46) *Lustr visí ze stropu.* (SSJČ, s.v. *viseti*)
 シャンデリア ぶら下がっている から 天井
 シャンデリアが天井からぶら下がっている。

チェコ語の場合は、英語やドイツ語の場合と同様に、支持体は通常は接着対象として捉えられているが、下方向へのイメージが強い場合には起点として捉えられる。

4.4. まとめ

懸垂において、支持体は、接着対象としても捉えられるし¹¹⁾、起点としても捉えられる¹²⁾。どのように捉えられるかは、個別言語による。また、両方の捉え方が可能な場合もある。その場合には、使い分けがある場合もあるし、話者の事態の捉え方による場合もある。支持体が接着対象として捉えられるのが一般的な言語においても、重力の作用する下方向へのイメージが強い場合には、起点やその他の標示が見られる場合がある。

5. 接頭辞と前置詞

ポーランド語においては、4.3.1 で見た通り、懸垂の支持体は英語の *on* に相当する前置詞 *na*

で標示される。例えば、照明器具が天井からぶら下がっている場合は、(37) ((47) に再掲) のようになる。

- (47) Lampa wisi na suficie. (Kopecka, p.307)
 ランプ ぶら下がっている に 天井
 ランプが天井からぶら下がっている。

つまり、動詞 *wisiec* の場合には支持体は接着対象として標示されているのである。

しかし、Kopecka (2004) によれば、分離を表す接頭辞 *z-* を伴った *zwisac* という動詞が存在しており、この動詞を用いて照明器具が天井からぶら下がっていることを表した場合、(48) のように支持体は起点として標示される。

- (48) Lampa z-wisa z sufitu. (Kopecka, p.86)
 ランプ 接頭辞-ぶら下がっている から 天井
 ランプが天井からぶら下がっている。

これは、分離を表す接頭辞 *z-* が動詞に付いている場合、この動詞が表す事態の概念化においては支持体が起点として捉えられているために、支持体に付く前置詞も起点を表すものが使われるのだと考えられる。

同じことはロシア語でも成り立っている。ロシア語では、照明器具が天井からぶら下がっている事態を動詞 *viset'* を用いて表した場合、支持体の標示には、(42) (= (49)) のように下にあることを表す前置詞 *pod* が使われる場合と、(44) (= (50)) のように接触を表す前置詞 *na* が使われる場合があった。

- (49) Ljustra visit pod potolkom. (Ožegov, s.v. viset')
 シャンデリア ぶら下がっている の下に 天井
 シャンデリアが天井からぶら下がっている。
- (50) Ljustra visit na potolke. (Wilson, v.s. from, 2)
 シャンデリア ぶら下がっている に 天井
 シャンデリアが天井からぶら下がっている。

しかし、分離を表す接頭辞 *s-* を伴った動詞 *svisat'* を用いた場合には、支持体は起点を表す前置詞 *s* によって標示される。

- (51) S potolka svisala kerosinovaja lampa.
 から 天井 ぶら下がっていた 灯油の ランプ
 天井から石油ランプがさがっていた。
 (『研究社露和辞典』, s.v. svisat')

ドイツ語の場合にも、接頭辞により前置詞の選択が変化する。先に見たとおり、ドイツ語においては、懸垂の支持体には、例えば、(32) (= (52)) のように、接触を表す前置詞が用いられる。

- (52) An dem Baum hingen Äpfel. (*Duden*, s.v. hängen)
 に 定冠詞 木 ぶら下がっていた りんご
 木にりんごがなっていた。

しかし、照明器具が天井からぶら下がっていることを表す (35) ((53) に再掲) では、動詞 hängen に、上から下への方向を表す接頭辞が付き、支持体は起点を表す前置詞 von によって標示されている (既述の通り、接頭辞 herab は分離して、文末に来ている)。

- (53) Die Lampe hängt von der Decke herab.
 定冠詞 ランプ ぶら下がっている から 定冠詞 天井 上から下へ
 ランプが天井からぶら下がっている。
 (*Langenscheidt*, s.v. herabhängen)

このように、通常は支持体が接着対象として捉えられ、接触を表す前置詞が用いられている言語においても、分離を表す接頭辞が動詞に付いている場合には、支持体が起点として捉えられ、そのため、起点を表す前置詞が用いられる場合があるのである。

6. 懸垂メタファー

第2章で見たとおり、ヨーロッパの多くの言語で、依存を表す動詞は、懸垂を表す動詞に接頭辞を付けることにより派生されている。しかし、懸垂を表す動詞は、接頭辞を付けなくても、そのまま依存を表す場合がある。

そもそも、ロマンス諸語の祖語であるラテン語においては、依存は、接頭辞の付いた *dependere* よりも、むしろ、接頭辞の付いていない *pendere* で表されていた。ロマンス諸語においては、次第に、*dependere* に由来する動詞が依存を表し、*pendere* に由来する動詞が懸垂を

表すように役割分担していった¹³⁾。

ゲルマン語においては、現代語でも、懸垂を表す動詞がそのまま依存を表す用法が見られる。例えば、英語では以下のような例が見られる。

- (54) Much hangs on the success of the collaboration between the Group of Seven governments and Brazil. (*Cobuild*, s.v. hang)

ドイツ語でも以下のような用法が見られる。

- (55) Der weitere Verlauf der Verhandlungen hängt
 定冠詞 これ以上の 経過 定冠詞 交渉 ぶら下がっている
 an ihm. (*Duden*, s.v. hängen)
 に 彼
 交渉の今後の成り行きは彼次第だ。

このように、懸垂を表す動詞は、接頭辞無しで、そのまま、依存を表すことがある¹⁴⁾。これは、依存という抽象的な関係を、懸垂という物理的な関係に見立てる懸垂メタファーによる意味拡張であると考えることができる。

他方、ロマンス諸語の依存を表す動詞の元になったラテン語の *dependere* は、そもそも、懸垂を表していたが、ロマンス諸語においては、次第に依存を表すように特化していった¹⁵⁾。つまり、接頭辞付きの依存を表す動詞も、もともとは、懸垂メタファーによって生じたのである¹⁶⁾。

以上より、懸垂を表す動詞から依存を表す動詞が派生したのは、接頭辞に因るものと言うよりは、むしろ懸垂メタファーに因るものであろうと考えられる。

7. 依存を表す動詞が取る前置詞

本章では、依存を表す動詞がどのような前置詞を要求するかを見ていく。これを考えるためには、依存を表す動詞が懸垂メタファーに基づいて派生されていることを考慮しなければならない。

7.1. 接頭辞の付かない動詞を用いる場合

まず、懸垂を表す動詞が、接頭辞無しでそのまま、依存を表す場合から見る。英語の場合、(54) (= (56)) で見た通り、前置詞は接触を表す *on* が用いられている。

- (56) Much hangs on the success of the collaboration between the Group of Seven governments and Brazil. (*Cobuild*, s.v. hang)

懸垂を表す場合には、(21) ((57) に再掲) や (26) ((58) に再掲) のように前置詞 *from* の場合と、(27) ((59) に再掲) や (28) ((60) に再掲) のように前置詞 *on* の場合があった。

- (57) The lamp hangs from the ceiling. (*Vandeloise*, 1989, p.108)
 (58) There was fruit hanging from the branches. (*Collins-Robert*, s.v. pendre)
 (59) There is a persimmon (hanging) on the branch. (ロス・タック, p.227)
 (60) There is a picture (hanging) on the wall. (ロス・タック, p.227)

この両者のうち、依存を表す場合には、*on* の方が選択されている。4.2 と 4.3 で見た通り、前置詞 *from* を用いるのは、重力の作用する下方向へのイメージが強い場合であり、そうでない場合には、前置詞 *on* が用いられる。これは、懸垂を表す動詞が懸垂メタファーによって依存を表すようになる場合、強い下方向へのイメージは依存において対応物が無く、写像されないためであろう。つまり、懸垂メタファーの元となる懸垂は、天井のような高所にある支持体から、コードのような細長い副支持体によって、照明器具のような被支持体が支持されているというイメージのものではなく、より限定されない一般的なものと考えられる。

ドイツ語の場合も、(55) ((61) に再掲) で見た通り、前置詞は接触を表す *an* が用いられている。

- (61) Der weitere Verlauf der Verhandlungen hängt
 定冠詞 これ以上の 経過 定冠詞 交渉 ぶら下がっている
 an ihm. (*Duden*, s.v. hängen)
 に 彼
 交渉の今後の成り行きは彼次第だ。

4.2.2 で見たとおり、懸垂においては、通常、英語の *on* に相当する前置詞 *an* が用いられるが、それがそのまま依存の場合にも適用されている。

重力の作用する下方向のイメージが強い場合には、(35) ((62) に再掲) のように、接頭辞の付いた *herabhängen* が使われ、前置詞も起点を表す *von* が用いられる。

- (62) Die Lampe hängt von der Decke herab.
 定冠詞 ランプ ぶら下がっている から 定冠詞 天井 上から下へ
 ランプが天井からぶら下がっている。
 (*Langenscheidt*, s.v. herabhängen)

しかし、依存を表すのに用いられるのは、そのような下方向へのイメージが強くない一般的な場合である^{17) 18)}。

7.2. 接頭辞を伴う動詞を用いる場合

ヨーロッパの多くの言語においては、懸垂を表す動詞に接頭辞を付けて依存が表される。このような動詞が取る前置詞を見ていく。

7.2.1. ロマンズ諸語

ロマンス諸語の依存を表す動詞は、ラテン語の懸垂を表す動詞 *pendere* に分離を表す接頭辞 *de-* を付けた *dependere* に由来する。この動詞は、もともとは懸垂を表していたのだが、懸垂メタファーにより、依存を表すようになった。このような経緯を考えれば、ロマンス諸語の依存を表す動詞が取る前置詞は、分離を表す接頭辞により、起点を表すものが使われるのは当然である。

表4 ロマンズ諸語の依存を表す動詞が取る前置詞

言語	…に依存する
フランス語	dépendre de …
イタリア語 ¹⁹⁾	dipendere da …
スペイン語	depender de …
ポルトガル語	depender de …
カタロニア語	dependre de …
ルーマニア語	depinde de …

これらの動詞を接頭辞の付かない懸垂を表す動詞と比べてみると、イタリア語やスペイン語の場合には、いずれの場合も起点を表す前置詞を取るのに対して (cf. 4.1.2, 4.1.3), フランス語では懸垂の場合には前置詞 *à* を取り (4.1.1), 依存の場合には前置詞 *de* を取るという対比が見られる。

第5章で見たとおり、懸垂を表す動詞が通常は接触を表す前置詞を取る場合でも、分離を表す接頭辞が付くと起点を表す前置詞を取った。例えば、ポーランド語においては、懸垂を表す動詞 *wiszieć* は、接触を表す前置詞 *na* で支持体を標示するが、分離を表す接頭辞 *z-* を伴う *zwać*

は起点を表す前置詞 *z* で支持体を標示する。ロシア語やドイツ語でも同様であった。依存を表す動詞が懸垂を表す動詞から懸垂メタファーによって派生したことを踏まえると、同じことが依存を表す動詞にも当てはまると予想できる。つまり、*dépendre* が前置詞 *de* を取るのは、分離を表す接頭辞 *de-* によると考えられるのである。

ただし、他言語からの強い影響がある場合には、この限りではない。インド洋・モーリシャス島 (Nallatamby, 1995, p.218)、アメリカ・ルイジアナ州 (Lane, 1934, pp.331-332; Smith and Philips, 1939, p.201)、カナダ・オンタリオ州 (Mougeon, Nadasdi and Rehner, 2005, pp.110-111) においては、フランス語が英語の強い影響を受けており、英語の *depend on* に影響を受けた *dépendre sur* が見られる。そもそも、懸垂を表す動詞に分離を表す接頭辞が付いているという語構成と懸垂メタファーが働いて、依存を表す動詞が起点を表す前置詞を取ることが動機付けられている訳だが、このような動機付けが意識されなければ、依存という意味自体に起点を表す前置詞を取らなければならない理由は希薄である²⁰⁾。しかも、フランス語の *dépendre* と英語の *depend* では同語源のため形態が酷似していて、同一視されやすい。そのために、前置詞が *sur* になるという変化が起きるのであろうと考えられる。スペイン語でも、アメリカ合衆国では、動詞 *depende* が英語の影響で前置詞 *en* を取ることがある (*Diccionario panhispánico de dudas*, s.v. *depende*)²¹⁾。

7.2.2. ゲルマン語派

ゲルマン語派においては、英語がフランス語から *depend* を借用していることを除くと、懸垂を表す動詞に分離を表す接頭辞を付けたものを用いている。前者においては前置詞 *on* が選択されているが、後者においては起点を表す前置詞が選択されている。

表5 ゲルマン語派の依存を表す動詞が取る前置詞

言語	…に依存する
英語	<i>depend on</i> …
ドイツ語	<i>von ... abhängen</i>
オランダ語	<i>van ... afhangen</i>
フリジア語	<i>fan ... ôfhingje</i>
デンマーク語	<i>afhænge af ...</i>
ノルウェー語(ブクモール)	<i>avhenge av ...</i>

英語以外は、ラテン語の *dependere* やフランス語 *dépendre* の翻訳借用であろうが、いずれにしても、分離を表す接頭辞が起点を表す前置詞を選択させていると考えられる²²⁾。

英語の *depend* は、フランス語の *dépendre* の借用語であり、当初は、フランス語で分離を表す前置詞 *de* が使われることに倣って、やはり分離を表す前置詞 *of* が使われたが、*on* に取って

代わられた（尾崎, p.6）。尾崎は, *depend* 以外に依存を表す表現を列挙し, それらがことごとく前置詞 *on* を取ることを指摘している (p.9)。

(63) *to count on, to calculate on, to figure on, to hang on, to reckon on, to rely on, to rest on*

つまり, *depend* が取る前置詞は, これらの類義表現と同じになっているのである。

他方, ドイツ語においては, *abhängen* 以外の依存を表す表現は前置詞 *auf* (～の上に) を取ると尾崎は述べている (p.10)。

- (64) *auf* … *ankommen* (… 次第である [非人称動詞])
sich auf … *stützen* (… をより所にする)
sich auf … *verlassen* (… をあてにする)
auf … *zählen* (… をあてにする)
 (和訳は筆者)

しかし, 英語の場合とは異なり, ドイツ語では *abhängen* が取る前置詞が *von* から *auf* に変わることは無かった。

以上から, 尾崎は以下のように結論づけている。

- (65) したがって, *dépendre de* を借用した際に, 英語は ***de*** という前置詞に違和感を覚えたため, 同義の表現との「類推」によって, それに相当する ***of*** を ***on*** に徐々に交換していったが, ドイツ語は ***von*** では不自然だと感じたものの, そのまま借用翻訳した形を採用して, 今日に至ると結論づけられる。(尾崎, p.10)

類義の表現と前置詞が異なっていたという点においては, 英語とドイツ語は同じなのだが, 英語には類推が働いて前置詞が変わった一方, ドイツ語ではそれが起きなかったというのである。しかし, 英語とドイツ語では, 事情が異なるように思われる。

ドイツ語の *abhängen* は翻訳借用であるため, 懸垂を表す動詞に分離を表す接頭辞を付けたという語構成が明確に意識される。よって, 懸垂メタファーによる表現であることが明確な上, 分離を表す接頭辞があるために, 起点を表す前置詞が選択されるのは自然なのである。

これに対して, 英語の *depend* は, フランス語からの借用語であるため, 語構成が不透明になっている²³⁾。よって, 懸垂メタファーに基づいていることも, 分離を表す接頭辞が付いていることも, 意識されにくくなっている。そのため, 起点を表す前置詞を使用する動機が分からなくなり, 尾崎の想定するとおり, 類義表現との類推が生じたと考えられる²⁴⁾。

7.2.3. スラブ語派

スラブ語派については、懸垂を表す動詞に接頭辞 *za-* を付けたもので依存を表しているが、この接頭辞が派生においてどのような意味的な役割を果たしているかは不明である²⁵⁾。

表6 スラブ語派の依存を表す動詞が取る前置詞

言語	…に依存する
ロシア語	<i>zaviset' ot</i> …
ポーランド語《古語》	<i>zawisać od</i> …
チェコ語	<i>záviset na</i> …
スロバキア語	<i>závisieť od</i> … / <i>na</i> …
セルボ・クロアチア語	<i>zavisiti od</i> …
ブルガリア語	<i>zavisja ot</i> …

多くの言語で起点を表す前置詞が使われているが、チェコ語やスロバキア語で英語の *on* に相当する前置詞 *na* の使用が見られる。しかし、チェコ語においても、古くは、起点を表す前置詞 *od* が用いられていた (*SSJČ*, s.v. *záviseti*)²⁶⁾。つまり、もともと前置詞 *od* だったのが前置詞 *na* に変わったのである。Thomas (1996, p.417) は、これを、ドイツ語の *abhängen* が起点を表す前置詞 *von* を取ることに對する純粹主義の結果としている。スロバキア語についても、チェコ語との密接な関係を考えれば、*od* がもともとの用法であったろうと想像される。よって、スラブ語派では、本来、依存を表す動詞は起点を表す前置詞を取っていたと言える。また、チェコ語やスロバキア語において、前置詞の選択が容易に変化しえたのは、接頭辞 *za-* の意味が不透明であるため、起点を表す前置詞を取る動機付けが強くなかったからではないかと考えられる。

他方、懸垂を表す動詞については、4.3 で見たとおり、基本的には、英語の *on* に相当する前置詞 *na* が使われる。よって、懸垂を表す動詞と依存を表す動詞で前置詞の選択が異なっている。この前置詞の選択の相違には、接頭辞 *za-* は関与していないと思われる。ポーランド語の動詞 *zawisać* は、依存の意味を表す場合、起点を表す前置詞 *od* を取る。しかし、この動詞には懸垂の意味もあり、その場合には、接触を表す前置詞 *na* を取るのである。このことは、前置詞 *od* を取ることが、懸垂メタファーによって依存の意味を表すようになった上で生じていることを示唆する^{27) 28)}。

しかし、スラブ語派においては、依存を表すのに、実は、*za-* 以外の接頭辞を伴う動詞も幾つか見られる。

表7 za-以外の接頭辞を取る依存を表す動詞の派生と前置詞

言語	…に依存する	ぶら下がっている
スロベニア語	odviseti od …	viseti
上ソルブ語	wotwisować wot …	wisać
下ソルブ語	wotwisowaś wot …	wisaś
クロアチア語	ovisiti o …	visiti

スロベニア語には、懸垂を表す動詞 *viseti* に、接頭辞 *za-* を付けて依存を表す動詞 *zaviseti* の他に、分離を表す接頭辞 *od-* を付けて依存を表す動詞 *odviseti* があるが、前置詞は起点を表す *od* を取る (*SSKJ*, s.v. *odviseti*)。ソルブ語には、懸垂を表す動詞 (上ソルブ語 *wisać*, 下ソルブ語 *wisaś*) に分離を表す接頭辞 *wot-* を付けて派生した依存を表す動詞 (上ソルブ語 *wotwisować*, 下ソルブ語 *wotwisowaś*) があり、前置詞は起点を表す *wot* を取る (三谷, 2003, s.v. *wotwisować*; *Słownik hornjoserbsko-němski*, s.v. *wotwisować*; *Wörterbuch Deutsch-Niedersorbisch*, s.v. *abhängen*)。これらは、明らかに、ロマンス諸語やゲルマン語派において観察されるのと同じ状況である。また、セルボ・クロアチア語のうち、クロアチア語においては、表6に挙がっている *zavisiti* の他に、接頭辞 *o-* を伴う *ovisiti* もあるが、これは前置詞 *o* を取る (Benson, s.v. *ovisiti*; 三谷, 1998, s.v. *ovisiti*)²⁹⁾。このように、スラブ語においても、接頭辞と前置詞の連動は明らか存在しているのである。

8. まとめ

ヨーロッパの諸言語においては、懸垂を表す動詞は、支持体を標示するのに、*from* のような起点を表す前置詞を用いる場合もあれば、*on* のような接触を表す前置詞を用いる場合もある。前者の標示は支持体を起点として捉えたものであり、後者の標示は支持体を接着対象として捉えたものである。個別言語によって、どちらの標示をするかが異なる。また、両方の標示が可能な言語では、事態の捉え方によって、標示が異なってくる。

しかし、支持体を接着対象として捉え、接触を表す前置詞を用いるのが普通の言語であっても、分離を表す接頭辞が付いた動詞を用いる場合には、支持体が起点として捉えられ、起点を表す前置詞が用いられる。

ヨーロッパの多くの言語において、依存を表す動詞は、懸垂を表す動詞に接頭辞を付けた形をしている。だが、懸垂を表す動詞が接頭辞無しでそのまま依存を表すこともあるし、接頭辞付きの依存を表す動詞が懸垂も表すこともある。よって、懸垂の意味から依存の意味への移行には、必ずしも、接頭辞は必要ではない。むしろ、依存という抽象的な事態を懸垂という物理的な事態に見立てて理解する「懸垂メタファーに」により、懸垂を表す動詞が依存を表すようになるのである。

懸垂を表す動詞が接頭辞無しで依存を表す場合には、基本的に懸垂の支持体の標示が依存の場合にも継承される。分離を表す接頭辞を伴い依存を表す動詞は、接頭辞の意味から、支持体が起点として捉えられているために、その表示には起点を表す前置詞が用いられる。

しかし、英語においては、依存を表す動詞が借用語であるために、語構成が意識されにくく、類義表現との類推により、前置詞の選択が変化した。また、他言語の影響が非常に強い場合には、それによって前置詞の選択が変化する場合もある。接頭辞の意味が不透明な場合には、前置詞の選択が十分な動機付けを有さずに、純粋主義により前置詞の選択が変化する場合もある。この点で、本研究は、動詞が取る前置詞の選択について、認知言語学的要因と社会言語学的要因のせめぎ合いのケーススタディーとしての意味も有している。

注

- 1) 尾崎 (2009, p.6) は、「掛ける、つるす」という他動詞から依存を表す動詞が派生していると考えているようだが、a) ラテン語の *pendere* (ぶら下がっている) は自動詞であり、「掛ける、つるす」という他動詞の意味は無い、b) ドイツ語の *abhängen* (依存する) の活用は、他動詞の *hängen - hängte - gehängt* (掛ける、つるす) とは異なり、自動詞の *hängen - hing - gehangen* (ぶら下がっている) と同じである、などの事実を鑑みても、「ぶら下がっている」という自動詞からの派生と考えるべきである。
- 2) カタロニア語の「ぶら下がっている」は、ラテン語 *pendere* (ぶら下がっている) から、***pendre* になることが予想されるが、俗ラテン語 **pendicare* に由来する *penjar* に取って代わられた (*Coromines, s.v. penjar*)。この形から、「依存する」の意味で *depenjar* という形も派生して、使われていた (*Coromines, s.v. depenjar*)。
- 3) *depinde* に対応する「ぶら下がっている」という動詞は無く、*atirna* が使われる。
- 4) *za-* 以外の接頭辞を伴うものも、幾つか見られる。詳しくは、7.2.3 で論じる。
- 5) 前置詞 *à* 以外に、英語の *on* に相当する前置詞 *sur* が用いられることもある (*TLFi, s.v. pendre*)。これから見ていく通り、通言語的には、懸垂の支持体は英語の *on* に相当する前置詞で標示される場合が多い。また、俗語だが、前置詞 *après* (～の後に) が使われる場合もある (*TLFi, s.v. pendre; Grand Robert, s.v. pendre*)。更には、まだだが、起点を表す前置詞 *de* (～から) が用いられる場合もある (cf. *Vandeloise, 1989, pp.128-129*)。これも、これから見ていく通り、通言語的には多いパターンである。
- 6) 厳密には、起点となるのは、支持体全体ではなく、副支持体が接着している箇所であろう。しかし、これは、その箇所が *active zone* (*Langacker, 1987, pp.271-274; 1990, pp.189-201; 2000, pp.62-67*) になっているということであり、言語表現上は支持体が起点として標示される。
- 7) ただし、絵が壁に掛かっている場合には、前置詞 *a* (～に) も可能なようである。
 - (i)

Il	quadro	pende	alla	parete.	(<i>Garzanti, s.v. pendere</i>)
定冠詞	絵	ぶら下がっている	に-	定冠詞	壁

絵は壁に掛かっている。

この場合は、フランス語と同様に、支持体は接着対象として捉えられているのであろう。注8のスペイン語の場合と比較されたい。
- 8) ただし、支持体が壁の場合には、前置詞は *en* と *de* の両方が可能なようである。
 - (i)

pende	{	en / de	}	la	pared	(cf. <i>Seco, s.v. pender</i>)
ぶら下がって		に		から	定冠詞	壁

壁に掛かっている

前置詞 *en* が使用されている場合には、支持体である壁が接着対象として捉えられていると考えられ

る。注7のイタリア語の場合と比較されたい。なお、この前置詞 *en* は、英語の *on* のように表面に接していることを表していると考えられる。この点については、7.2.1 で述べるように、アメリカ合衆国において英語の *depend on* … の影響で、*dependen* … が見られることも参照されたい。

- 9) ロマンズ語の懸垂を表す動詞の元になったラテン語の *pendere* (ぶら下がっている) は、支持体を標示するのに、奪格、前置詞 *ex* (～の中から)、*ab* (～から)、*de* (～から下へ) を用いる場合と、前置詞 *in* (～の上に) を用いる場合があった。前者は支持体を起点として捉えたものであり、後者は接着対象として捉えたものであると考えられる。
- 10) 支持体である木に接触しているのは、被支持体であるりんごであると捉えていても、副支持体である柄であると捉えていても、同じことである。
- 11) セルボ・クロアチア語の場合には、前置詞 *na* の他に、前置詞 *o* が使われる場合もある。

- (i) *slika visi na zidu* (Benson, s.v. *visiti*)
 絵 ぶら下がっている に 壁
 絵が壁に掛かっている。
- (ii) *slika visi o ekseru* (*ibid.*)
 絵 ぶら下がっている 釘
 絵が釘に掛かっている。

この前置詞 *o* も接着対象を表しているのではないかと思われるが、詳細は不明である。

- 12) 懸垂に基づく比喩表現に *hang by a thread* (風前のともしびである) がある。ここでは前置詞 *by* が使われているが、副支持体が支持体と被支持体を媒介していることから、道具・手段を表す *by* を用いたものであろう。この慣用表現はラテン語の *pendere* (*in*) *filo* [*tenui*] ([細い] 糸でぶら下がっている) に由来し、ヨーロッパの各諸語に見られるが、英語のように道具・手段を表す前置詞を用いるものはまれである。
- 13) フランス語においては、中期フランス語の段階ではこの変化は進行中で、*pendre* には、まだ、依存の意味があった (cf. Greimas & Keane, s.v. *pendre*; *DMD* s.v. *pendre*)。現代語ではこの意味はほとんど失われているが、*TLFi* (s.v. *pendre*) は文章語で稀としながらも依存の意味を記載している (用例は1844年)。スペイン語でも、少なくとも14世紀頃までは、依存の意味があった (cf. Alonso, s.v. *pendre*)。
- 14) ギリシア語聖書マタイ福音書22章40節の *kremasthai* やルーマニア語の *atârna* も例として付け加えることができる。
- 15) 懸垂の意味は、古期フランス語の *dependre* においては、まだ認められる。これは、英語の *depend* にも受け継がれたが、現在では、古語・文語とされる (*OED*, s.v. *depend*)。
- 16) オランダ語の *afhangen* やフリジア語の *ôfhingje* にも懸垂の意味が見られる。
- 17) 注13で見たとおり、中期フランス語においては、*pendre* に、まだ、依存の意味があったが、前置詞は *de* と *à* の両方が見られる (cf. *DMF*, s.v. *pendre*)。現代語においては、この用法は失われているが、先述の通り、*TLFi* が文学語で稀としながらもこの用法を記載しており、前置詞は懸垂の場合と同様に *à* となっている。また、やはり注13で見たとおり、中世スペイン語においても、*pendre* に依存の意味があったが、Alonso (s.v. *pendre*) の挙げている例文では、前置詞は *en* である。懸垂の意味で通常使われる前置詞 *de* と異なっているが、注8で見たとおり、懸垂の意味でも前置詞 *en* が使われる場合があるので、これに基づくものではないかと考えられる。
- 18) チェコ語の懸垂を表す動詞 *viset* には、古語において依存を表す用法があった。しかし、懸垂の場合には、4.3.3 で見たとおり、英語の *on* に相当する前置詞 *na* が使われるのが通常であるのに対して、依存の場合には起点を表す *od* や *z* が用いられる (*SSJČ*, s.v. *viseti*, 9)。これについては、注27を参照されたい。
- 19) イタリア語は、他のロマンス語の起点を表す前置詞と同源の *di* ではなく、起点であることをより明確に表す *da* を使用している。このことは、前置詞の選択が単に共通の起源から継承されたものではなく、起点を表す前置詞が選択されていることを意味する。
- 20) くだけた話し言葉では、フランス語の *dépendre* が間接疑問文を取る時には、前置詞 *de* が削除される (以下の例は、間接疑問文縮約が適用されている)。

- (i)
- Ça dépend qui.*
- (
- Grand Robert*
- , s.v. l.
- dépendre*
-)

それ 依存する 誰

それは誰かによる。

これは、この前置詞の存在理由が希薄であることを示していると考えられることができる。

- 21) 注8で見たとおり、懸垂の *pender* が、そもそも、前置詞 *en* を取り得る。また、注17で見たとおり、中世スペイン語で依存を表す *pender* も *en* を取った。よって、前置詞 *en* を取り得る素地が *pender* にある訳だが、接頭辞 *de-* があるにも関わらず *en* を取るのは、やはり、英語の影響である。
- 22) スウェーデン語においても、懸垂を表す動詞 *hänga* から派生した *afhänga* (現代の正字法では *avhänga*) という動詞があったようである。しかし、前置詞については、起点を表す *af* (現代の正字法では *av*) だけでなく、接触を表す *på* を取った例もある (*Svenska Akademiens ordbok*, s.v. *afhänga*)。詳細が分からないので、これ以上論じることはできない。
- 23) Oppenheimer (1961, pp.64-65) は、ドイツ語の *abhängen* やロシア語の *zaviset'* は翻訳借用なのでそれぞれの話者に文字通りの意味が分かるが、英語の *depend* はラテン語か語源を学ばないと文字通りの意味が分からないと述べている。Oppenheimer (1968, p.489) も参照されたい。
- 24) 重要なのは、分離を表す接頭辞が付いていることが分かりにくくなることである。なぜなら、懸垂メタファーに基づく表現であることは、前置詞 *on* を選択することと矛盾しないからである。事実、尾崎の指摘する *depend on* の類義表現の中に、*to hang on* があるので、懸垂メタファーが働いたまま、類推により前置詞が *on* になることも可能である。
- 25) 接頭辞 *za-* は、本来、「後」という意味を表すが、その他にもさまざまな意味を有している (cf. Janda, 1986, pp.78-133)。しかし、この接頭辞が依存の意味の派生にどのように関連しているのかは不明である。Oppenheimer (1961, p.65; 1968, p.489) は、ロシア語の *zaviset'* はラテン語 *dependere* の翻訳借用だとし、"*to hang behind or from*" を意味すると述べているが、接頭辞 *za-* が起点の意味になる理由は説明していない。
- 26) Thomas (1996, p.417) は、*SSjČ* が前置詞 *na* しか挙げていないとしているが、実際には、前置詞 *od* にも言及している。
- 27) 注18で見たとおり、チェコ語の懸垂を表す *viset* が、古語において依存を表す場合には、前置詞が起点を表すもの変わったのも、同じことだと考えられる。
- 28) スラブ語派には、「横になっている・横たわっている」という動詞に接頭辞の *za-* を付けて依存を表す動詞も見られる。

表 i スラブ語派におけるもう一つの依存を表す動詞の派生

言語	依存する	横になっている・横たわっている
ポーランド語	<i>zależeć</i>	<i>leżeć</i>
チェコ語	<i>záležet</i>	<i>ležet</i>
スロバキア語	<i>záležať</i>	<i>ležať</i>
白ロシア語	<i>zaliežać</i>	<i>lažać</i>
ウクライナ語	<i>zaležaty</i>	<i>ležaty</i>

これらの動詞が取る前置詞を比較すると、ポーランド語・白ロシア語・ウクライナ語は起点を表す前置詞を取るのに対して、チェコ語とスロバキア語は接触を表す前置詞 *na* を取る。

表 ii スラブ語派のもう一つの依存を表す動詞が取る前置詞

言語	…に依存する
ポーランド語	<i>zależeć od</i> …
チェコ語	<i>záležet na</i> …
スロバキア語	<i>záležať na</i> …
白ロシア語	<i>zaliežać ad</i> …
ウクライナ語	<i>zaležaty vid</i> …

実は、チェコ語の *záležet* は、かつては、前置詞 *od* を要求していた (*SSJČ*, s.v. *záležeti*)。つまり、*záviset* の場合と同じ変化が起きたと言える。スロバキア語についても、密接な関係のあるチェコ語と同じ状況であろう。もっとも、*Slovar' ruskogo jazyka XVIII veka* (s.v. *zalezat'*) を見ると、ロシア語でも、18世紀には、*zalezat'* という動詞が「依存する」という意味で使われていたが、用例を見る限り、前置詞は *v* や *na* が使われている。これは、接頭辞 *za-* の意味が不透明であるために、前置詞の選択が安定しにくかったのだらうと考えられる。

29) *ovisiti* の派生には、注 11 で言及したとおり、懸垂を表す *visiti* が前置詞 *o* を取ることがあることが関連していると考えられる。

参考文献

- Alonso, M. (1986) *Diccionario medieval español*, Salamanca, Universidad pontificia de Salamanca.
- Benson, M. (1988) *Srpskohrvatsko-ingleski rečnik*, Beograd, Prosveta.
- Cobuild = *Collins Cobuild English dictionary*, New ed. completely rev. (1995) London, HarperCollins.
- Collins-Robert = *Collins-Robert comprehensive French-English English-French dictionary*, Vol. 1 (1995) Glasgow, HarperCollins.
- Coromines, J. (1980-2001) *Diccionari etimològic i complementari de la llengua catalana*, Barcelona, Curial Edicions Catalanes.
- Diccionario panhispánico de dudas* (2005) Madrid, Santillana.
- DMF = *Dictionnaire du moyen français*, <http://atilf.atilf.fr/dmf.htm>.
- Duden* = *Duden : das große Wörterbuch der deutschen Sprache* (1993-1995) Mannheim, Dudenverlag.
- Garzanti = *Il Grande dizionario Garzanti della lingua italiana*, Nuova ed. (1993) Milano, Garzanti.
- Grand Robert* = *Le Grand Robert de la langue française*, Nouvelle édition augmentée (2001) Paris, Dictionnaires le Robert.
- Grappin, P. (1994) *Grand dictionnaire français-allemand allemand-français*, Nouv. éd., Paris, Larousse.
- Greimas, A.J. & T.M. Keane (2001) *Dictionnaire du moyen français*, Paris, Larousse.
- Herman, L.J. ed. (1975) *A dictionary of Slavic word families*, New York, Columbia University Press.
- Janda, L. A. (1986) *A semantic analysis of the Russian verbal prefixes : za-, pere-, do-, and ot-*, München, Otto Sagner.
- Kopecka, A. (2004) *Étude typologique de l'expression de l'espace : localisation et déplacement en français et en polonais*, Thèse de doctorat, Université Lumière Lyon 2.
- Lane, G.S. (1934) "Notes on Louisiana-French", *Language* 10(4). pp.323-333.
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of cognitive grammar, Volume I, Theoretical prerequisites*, Stanford, Stanford University Press.
- (1990) *Concept, image, and symbol : the cognitive basis of grammar*, Berlin/New York, Mouton de Gruyter.
- (2000) *Grammar and conceptualization*, Berlin/New York, Mouton de Gruyter.
- Langenscheidt* = *Langenscheidts enzyklopädisches Wörterbuch*, 5. Auflage (1990) Berlin, Langenscheidt.
- Moliner, M. (1998) *Diccionario de uso del español*, segunda edición, Madrid, Gredos.
- Mougeon, R., T. Nadasdi and K. Rehner (2005) "Contact-induced linguistic innovations on the continuum of language use: The case of French in Otario", *Bilingualism: Language and Cognition* 8(2), pp.99-115.
- Nallatamby, P. (1995) "Régionalisme lexical et francophonie plurielle à l'Île Maurice", M. Francard et D. Latin, *Le régionalisme lexical*, Louvain-la-Neuve, Duculot, pp.213-226.
- OED* = *The Oxford English dictionary*, second edition (1989) Oxford, Clarendon Press.
- Oppenheimer, M. Jr. (1961) "The bane of our linguistic insensibility", *The Modern Language Journal* 45(2), pp.64-67.
- (1968) "Do languages seek their own level of abstraction ?", *The Educational Forum* 32(4), pp.487-490.

- OSD = *The Oxford Spanish dictionary*, Second edition, revised with supplements (2001) Oxford, Oxford University Press.
- Ožegov, S. I. (1987) *Slovar' russkogo jazyka : okolo 57000 slov*, 18 izd., Moskva, "Russkij jazyk".
- Seco, M. (1998) *Diccionario de dudas y dificultades de la lengua española*, 10ª edición, Madrid, Espasa Calpe.
- SSKJ = *Slovar slovenskega knjižnega jezika* (1970-1991) Ljubljana, Državna založba Slovenije.
- Slovar' russkogo jazyka XVIII veka* (1984ff) Leningrad/Sankt-Peterburg, Nauka.
- Slovník hornjoserbsko-němski* (1990) Bautzen, Domowina-Verlag.
- Smith, H. and H. Philips (1939) "The influence of English on Louisiana 'Cajun' French in Evangeline Parish", *American Speech* 14(3), pp.198-201.
- SSJČ = *Slovník spisovného jazyka českého*, 2. nezměněné vyd. (1971) Praha, Academia.
- Svenska Akademiens ordbok*, <http://g3.spraakdata.gu.se/saob/>.
- Thomas, G. (1996) "Towards a history of modern Czech purism: The problem of covert Germanisms", *The Slavonic and East European Review* 74(3), pp. 401-420.
- TLFi = *Le Trésor de la langue française informatisé*, <http://atilf.atilf.fr/tlf.htm>.
- Vandeloise, C. (1990) "L'expression linguistique de la suspension", *Cahiers de lexicologie* 55, pp.101-133.
- (2005) "Family resemblances and the structure of spatial relationships", *Corela* 3(2), Accessible en ligne à l'URL : <http://edel.univ-poitiers.fr/corela/document.php?id=726> (consulté le 24/06/2009)
- Wilson, E. A. M. (1982) *The modern Russian dictionary for English speakers*, Oxford, Pergamon Press.
- Wörterbuch Deutsch-Niedersorbisch* (1990) Bautzen, Domowina-Verlag.
- Zingarelli = *Lo Zingarelli 1995 : vocabolario della lingua italiana* (1995) Bologna, Zanichelli.
- 伊和中辞典 第2版 (1999) 東京, 小学館.
- 尾崎久男 (2009) 「英語における借用翻訳の通時的考察 : dépendre de は depend of か depend on か ? 」, 『Sprachwissenschaft Kyoto』 第8号, pp.1-16.
- 研究社露和辞典 (1988) 東京, 研究社.
- 現代チェコ語日本語辞典 (2001) 東京, 大学書林.
- 西和中辞典 (1990) 東京, 小学館.
- 三谷恵子 (1998) 『クロアチア語常用 6000 語』, 東京, 大学書林.
- (2003) 『ソルブ語辞典』, 東京, 大学書林.
- ロス典子, モーリス・タック (1999) 『ネイティブの感覚で前置詞が使える』, 東京, ベレ出版.

Prepositions Required by Verbs of Suspension and Dependence

Tohru HIRATSUKA

Abstract

In European languages, verbs denoting suspension, such as *to hang*, may take a preposition indicating source, such as *from*, or a preposition indicating contact, such as *on*. Which preposition is used depends on how the situation is construed. In languages where verbs denoting suspension usually take a contact preposition, when prefixes denoting separation are added to these verbs, a source preposition is used.

In many European languages, verbs denoting dependence, such as *to depend*, are constructed by adding prefixes to verbs of suspension. But, the transition from suspension to dependence is not caused by prefixes, but by the DEPENDING IS HANGING metaphor (or “suspension metaphor”), by which the situation of depending on something is understood in terms of the situation of hanging on something.

Verbs of dependence with prefixes denoting separation take a source preposition, because of the meaning of these prefixes. In English, *depend* once took the source preposition *of*, but this was replaced by *on* by analogy with synonymous expressions, because English speakers were usually unaware of the etymology of the verb. In order to understand the selection of prepositions, it is necessary to consider cognitive factors as well as sociolinguistic factors, such as language contact and linguistic purism.

Keywords : verbs of dependence, verbs of suspension, the DEPENDING IS HANGING metaphor, prefix, preposition